

東京神學大學報

T O K Y O U N I O N  T H E O L O G I C A L S E M I N A R Y

No. 329

OCTOBER 11, 2024

●夏期伝道実習壮行礼拝説教

「神の国のために遣わされる」

日本基督教団 仙台東一番丁教会 牧師 瀬谷 寛

●受験志願者募集のご案内

東京神学大学 教授 田中 光

●博士課程後期課程研究発表会の報告

東京神学大学 特任常勤講師 矢田 洋子

東京神学大学 助教 飯田 仰

●夏期伝道実習報告

- 2025年度入学者選抜 11月入試：11月23日
2月入試：2月11～12日
3月入試：3月4日

海外
国際福音宣教会(OMF)の研修プログラム
(東南アジア2都市) (小野恵理子)

日本キリスト教会
札幌豊平 (関口直文)

仙台東一番丁 (内田幸四郎)

福島地区
〔福島伊達、大平、保原〕 (浅輪一郎)

所沢武蔵野 (瀬戸 恵)

聖ヶ丘 (井上博志)
要町 (重村智計)
代田 (金 賢俊)
在日大韓基督教会
品川 (呂 寅讚)

甲府 (吉岡優介)

横浜指路 (竹村恭一)
単立
藤沢キリスト (坂本 秀)

長野地区
〔松本東、長野、信州〕 (梁 秀讚)

遠州 (岩坪 彩)

北陸連合長老会
〔富山鹿島町、羽咋、金沢、
金沢元町、内灘、小松〕 (小林光恵)

兵庫地区
〔西宮一麦、須磨月見山、
畦野〕 (原妃弥子)

北九州地区
〔八幡鉄町、八幡西、
戸畑、門司〕 (金井恭子)

佐世保東部
(宇都宮明子)

大分地区
〔宇佐、豊後高田、
別府不老町、由布院、
日出〕 (三永信泰)

高知 (梅津重信)
香長伝道圏
〔瀬戸キリスト、穴喰、土佐嶺南、土佐嶺北、
高知東、香美〕 (太田梨人)

夏期伝道実習先教会

東京神学大学ホームページをご覧ください。

<https://www.tuts.ac.jp/>

「神の国のために遣わされる」

マタイによる福音書6章10 a 節



日本基督教団 仙台東一番丁教会 牧師 瀬谷 寛

主イエスは、弟子たちとの伝道の旅の途中で、祈りを教えてくださいました。「主の祈り」です。特に今日は、お招きいただきました夏期伝道実習壮行礼拝という礼拝の場において、「御国を来たらせたまえ」「御国が来ますように」という、主イエスの教えてくださった祈りの言葉に、耳を傾けたいと思います。

主イエスこそが、その「神の国」をもたらすために、激しい戦いをなさいました。そして、わたしたちに託された使命もまた、この御国のために戦うことでした。夏期伝道とは、御国のために戦うことです。これから、仲間が、そして自分自身が、その戦いに出て行くとする、今、わたしたちは、その場に立ち会っているのです。

マルコによる福音書を読むと、1・14、15に、主イエスの伝道の第一声としてお語りになった言葉、「イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた」、これは、「神の国が来た」という意味です。神の国は主イエスご自身がこの地上におられることによって、もうその地上に来ている、来始めている、ということを示しています。だから、神の国、というよりも、神のご支配と訳した方がよい、と言われます。

「国」というとどうしても、どこからどこまでが神の国なのか、などと思いかねないからです。

主イエスが、「神の国が来た」とおっしゃった時、もしかすると弟子のある者は誤解をして、自分

たちはもうその神の国の中に入っているが、他の人々は、まだ国境の向こう側にいる、と思ってしまうたかもしれない。そのために、主イエスと弟子である自分、それ以外の他の人たちとの間に、目に見えない線を引き、例えば幼い子どもを見ても、その子が神の国に属しているなどとは思わなかったのでしょうか。ですから子どもが主イエスのところに連れてこられると、退けてしまいましたが、その時、主イエスは激しくしかり、「子供のようには神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」(マルコ10・15)とおっしゃいました。

「御国を来たらせたまえ」という、主イエスが教えてくださった祈りで問われているのは、このような弟子の、国境を築いて裁く心ではなく、主イエスが祝福しておられる幼子の心で、これを祈ることができるか、ということなのです。

主イエスの地上のご生涯は、まさにこの神の国、新しい神のご支配が、何か特定の者のためではない、すべてのもののために、すでに地上において始まっていることを明らかにする、そういう戦いでした。神の支配がここに始まる、そしてその神の支配が、この地上の隅々にまで行き届く、そのために戦われたのです。

この神の国のために十字架で死なれた主イエスの戦いは、復活、再臨にまで至ります。復活され、新しい命の道を示された主イエスが、再び来てくださり、最後の救いを完成してくださる約束が示されています。これは、キリスト者ばかりでなく、およそこの世に生き、苦しみ、悲しみを味わっているすべての人々が、一日も早くその日を来たらせてください、と祈るべき祈りです。これは、切実な祈りとなりえます。この、「御国を来たらせたまえ」と御国の完成を待ち望んで祈る仲間たちの集団が教会です。そう祈る仲間が一人、またひとり増やされる、それが伝道の業です。

「御国を来たらせたまえ」という祈りを日々の大切な祈りとしていたいと思います。朝に夕に、そして昼間にも、何につけても、ひたすらに「御国を来たらせたまえ」「神の国の完成がもたらされますように」と祈る、そのためにわたしたち伝道者・神学生は立てられ、遣わされて行きます。

学長室から

学長 神代 真砂実

少し古い話となりますが、7月の終わりに高知教会を会場に開かれた「日本伝道ミーティング高知」に講師として招かれました。講演の奉仕をさせていただいた後、参加（県外からも含め）された先生方と議論・懇談の時間を持ち、有意義な会を経験させていただきました。

そこでの私の講演自体は、昨年の日本伝道フォーラムでした。「キリスト教の将来」という講演を補足するものでしたが、参加された先生方は、自らの置かれている状況を踏まえて、どのように伝道の展望を開いていったらよいかをそれぞれに考えてくださいました。

このように、また「日本伝道ミーティング高知」という名前が示す通り、これは日本伝道を特に高知という場所で開催するという機会です。6月に東京神学大学で行なわれる日本伝道フォーラムは、日本全国から牧師たちが集まる関係上、また、日本基督教団という全体教会のことも考えないわけにいかない関係上、どうしても大きな枠組みでの話が多くなりますので、このような、言わば「地域密着型」の集いによって、特定の地域の牧師たちが、その地域の固有性なども踏まえながら、具体的に伝道の進展を考えるというのは、とても意味のあることではないかと思いました。

このような試みが、日本の各地でなされ、また、そのために東京神学大学が何らかのお手伝いができるのであれば、嬉しいことです。

東京神学大学受験志願者募集のご案内

「私は何者なのでしょう。この私が本当にファラオのもとに行くのですか。私がイスラエルの人々を本当にエジプトから導き出すのですか」(出エジプト記3章11節、聖書協会共同訳)。

モーセは、神によって召しを受けた際、自分に課せられた務めの重さに恐れおののき、思わず「私は何者なのでしょう」と神に訴えました。つまり、自分はとてもそんな器ではない、イスラエルの民をエジプトから導き出すなど、自分にできることではないということです。私たちもこのモーセの気持ちはよくわかるかもしれません。もし自分に、献身するようにという神様からの召しが与えられたなら、と考えるとき、やはり、自分に伝道者のような職務は荷が重すぎますと答えたくなくなるかもしれません。

このモーセの答えは謙遜な受け答えとも言えますが、しかし見方を変えると、自分のことばかりに気を取られ過ぎている答えであるとも言えるかもしれません。直前の主の言葉をよく読むと、エジプトに自ら下り、イスラエルの民を救い、約束の地に導くのは、あくまで主なる神なのです(出3:8)。モーセはあくまで主に仕える存在として、主によって用いられる存在として召されています。そして同じことは私たちの場合にも当てはまるのです。私たちが主に伝道者として召される時も、私たちはまず自分の資質が十分なのかということが気になるかもしれませんが、大切なことは、私たちがどのような存在であっても、主が召してくださるのならば、主はご自分の御用のために、私たちを御心のままに用いてくださるということです。そして何よりも、モーセの召命物語にも示されているように、主は私たちと共にいてくださり(出3:12)、そのことによってこそ、私たちは主から委ねられた業を成し遂げていくことが許されるのです。

以上の御言葉を引用した理由は、これを読んでいる皆さんにも、是非一度、この召命という出来事を、ご自分のこととして考えていただきたいからです。主は皆さんの名を呼んで、伝道者へと召しておられないでしょうか。あるいは、信徒として更に教会に仕えるための学びをするようにと、召しておられないでしょうか。是非とも、このことをお考えいただきたいのです。皆さんの中にそのような招きを受けられた方がもしおられれば(あるいは献身について少しでも考えておいでの方がいらっしゃいましたら)、是非東京神学大学で学ぶことをお考えになってみてください。そしてそのことについて祈りを深め、また教会の牧師先生に相談して、祈りの時を持っていただきたいと思います。

東神大でどのような学びをするのか、どのような生活を送るのか、色々と不安がおりかもしれません。その場合には、遠慮なく東神大にお問い合わせください。教務課主任の須田拓先生や教務課副主任(入試担当)の私がお相談をお受けいたします。また、12月7日(土)にはオープン・キャンパスも予定されています。そこで神学生としての学びについて(教員によるショート・レクチャーがございます)、あるいは学生生活について(学生寮のこと、学校の施設のこと、奨学金のことなどについて説明の機会がございます)より良く知ることができるよう。

実際に受験をされる方のために、手短かに東神大の入試制度についてお話させていただきます。高等学校を卒業した人・大検に合格した人は学部の入学試験に、そして短大・大学を卒業した人は3年次の編入学試験に応募することができます。既に神学の学びを通して、神学士、あるいはそれと同等と認められる人は、大学院博士課程前期課程を受験することができます。更には、キリスト教の高校・大学に在籍されている方には、「指定校推薦」による受験も備えられています。以上の入試は11月、2月、3月と三回行われます。ご自分が希望される入試がいつ行われるかは、大学のHPなどで確認できますし、またより詳しい出願方法などについてお知りになりたい場合には、大学のHPのメールフォームなどを通して、募集要項をお取り寄せください。

東神大は基本的に伝道者の養成をその主要な目的としておりますが、しかし近年の教会の実情と必要に応じて、「神学研修志望」というコースを設けております。これは、卒業後も信徒として広く教会に仕えることを目指す方に学部の学びの場を開放するものです。牧師配偶者や、教会の役員・長老として教会にお仕えしておられる方をはじめ、様々な仕方で教会に仕えることを希望される方が、このコースの対象です。入学後に伝道献身者としての召命が与えられれば、伝道献身コースに変更することもあり得ますし、実際にそのようなケースがあります。神学研修志望について更にお知りになりたい場合には、大学のHPをご覧ください。

東神大を卒業された方々は、基本的には教会の牧師として伝道に赴かれることとなります。しかしそれだけではありません。全国のキリスト教中高において聖書科の教師として働く方、あるいはキリスト教大学の宗教主事などとして働かれる方々がおられます。その他、海外宣教に遣わされる方、医療機関や社会福祉施設のチャプレンで働かれている方もおられます。

戦争や災害をはじめとしたこの世界を不安に陥れる様々な出来事に囲まれながら私たちは日々を生きています。このような中で、多くの人々が生と死についての根本的な問いを抱えているのではないのでしょうか。復活であり、命であられるイエス・キリストの福音を届ける人が今こそ必要です。皆様の内はこの務めへと召されているという確信が与えられている方がおられましたら、是非、東京神学大学で共に学び、研鑽の時を分かち合いたいと願っています。



東京神学大学 教授
田中 光

博士課程後期課程研究発表会 (2024. 6. 25) の報告

「バシレイオスの創造理解について—『ヘクサエメロン』からの一考察」

東京神学大学 助教

飯田 仰



カッパドキア三教父と呼ばれる内の一人、カイサリアのバシレイオス(330-379)には、『ヘクサエメロン』と題する、創世記第一章の創造物語に纏わる講話(或いは説教)が残されている。この講話集を読むことで、バシレイオスの聖書理解及び神学的特徴を理解することができる。天地万物は聖書が語る神によって創られ、その神の天地創造には目的があることを述べることで、バシレイオスは教会の一致を目指そうとしていたと理解することができる。

『ヘクサエメロン』はバシレイオスの生涯の晩年に近い370年頃のレントの時期に語られた連続講話である。当時の聴衆に向かってバシレイオスはこの世界が神によって創られたことを強調し、それはギリシア哲学者たちが教えるような諸原因の偶然だとか、始まりをもたない存在であるといったことではないと断言する。この講話集が当時の文化的世界観に対するアンチテーゼとして語られ、聖書が語る神の天地創造物語こそがこの世界の真実を表し、語り継がれているものなのだという。若き頃、アテネで学業を修めた彼のギリシア哲学に精通していた姿がこの講話集からも窺える。彼はこうした知識の全てを、天地を創られた神を描写するために用いたのであった。

バシレイオスは、創世記第一章の六日間に沿う形で講話を進める。創造に携わった三位一体の神への言及、特に聖霊についての言及がなされ、更に、光、水、天体、自然界の動植物について、それらが如何に創造主なる神を示し、またその神の目的を語り継いでいるかについて述べる。蟹やイカ、そして蜂といった被造物から生命の奥義について多面的に学ばべきだという。

その中で、人間だけが神の似姿に創造されたことに彼は注目する。人間は他の被造物と異なり、神のかたちに創造された。だが、どうやら人間だけが己の存在目的を知らないようであり、己を知ることが如何に困難極まることであるのかを物語っていると述べる。そこで、人間が神のかたちに見られたことを示すのは御子を見る時だけなのだという。

今日、バシレイオスの聖書解釈方法をどのように理解すべきかにおいて、一致した見解は存在しない。寓意的なのか、或いは字義的なのか。端的に纏め上げることが極めて困難である。おそらくバシレイオスは教会の一致を保つために、自らの聖書解釈法さえもその牧会的配慮から柔軟に適應させていたのである。そこに彼の神学的特徴とも言える姿勢を見ることができ、彼が何を目標としていたのかが把握される。彼は自らの該博さを用いながらも、全ての根底にあった聖書の御言葉に立ち続けながら教会を養い纏めようとしたことが窺えるのである。

ダニエル書の終末論—「オーラーム(永遠)」の用例から

東京神学大学 特任常勤講師

矢田 洋子



ダニエル書には黙示的終末論が描かれていると言われる。しかし、ダニエル書は「黙示」だからといって、その興味は「超越」にあり、この世ではなくあの世での救いの希望が描かれているのだろうか。少なくとも11章までの「終わり(の時)」とは、神殿冒瀆の王の死のことであり、また祭儀不能期間が終わるといふこの世の希望である。ダニエル書には終末論があり、「黙示的」とされるのは、夢幻の解き明かしとして繰り返して語られる世界帝国の王権推移の最期が、永遠の王国の樹立(2, 7章)、死後の永遠の命への言及(12章)で閉じられていることのようにある。そこで本

研究では、まず、永遠を意味するヘブライ語「オーラーム」の用例439箇所立ち帰り、その意味を確認した。オーラームは時間的には「遠い昔」、「遠い未来」あるいはそこまでの継統を表す語ではあるが、聖書では明らかに「神の性質」「神の約束」「神への賛美」を語ったものが大部分であることを確認した。永遠は決して未来永劫ではなく、主によって「永遠の廃虚」(イザ58:12, 61:4)は築き直され、主によって永遠の約束は覆されることもある(サム上2:30, 3:13, 14)。ダニエル書でも、世界帝国の代わりに神によって立てられた王国が永遠であるという言及(2:44, 7:14,

27)は、王宮物語で最終的に告白された神讚美の言葉(3:33, 4:31, 6:27)とそっくりである。ほぼ同じ言い回しが詩編にもあることから、神による永遠の統治という表現は神讚美の定型句であり、そこに、世界が終わった後の永遠の王国において実現するという主張はなかったと考えられる。また、10-12章の結末にある死者の甦りの表現と類似の表現は、旧約聖書では国の徹底的滅び(エレ51:39, 57)や共同体の復興(イザ26:19)の言及であり、人間の生命の問題ではない。死者の甦りを描いているという解釈は、外典マカバイ記二や偽典エノク書、クムラン文書の証言によつ

てのみ支えられている。また「永遠」+「命/生きる」は、旧約では例外なく主なる神のことである。ダニエル書が「終わり」と「永遠」という言葉で描いているのは、少なくとも時間軸の未来側の端の出来事とはいえない。むしろ、神の確かさへの信頼、神が必ずご自身の力で神と出会うことのできる祭儀礼拝を回復させてくださるといふ希望である。ただしそれをどの程度当時の神殿祭儀と同一視し、どの程度別次元のものとするかは考察を重ねる必要がある。

< 2024年 夏期伝道実習報告 >



宇都宮 明子



金 賢俊



原 妃弥子



太田 梨人

「出会い」

学部4年 太田 梨人

四国の香長伝道圏に導かれ、恵みに溢れた夏期伝道実習を送らせていただきました。1ヶ月の間に、伝道圏の12教会に訪問し、礼拝し、交わりを持ち、気づけば帰り道。瞬く間に過ぎていった実習生活は、今までに経験したことのない、濃密な信仰体験でした。この濃密な体験ができたのは、それだけ豊かな「出会い」があったからです。私は、各教会において御言葉に仕え、福音のためにその身を尽くしておられる先生方と出会いました。また、それぞれの教会で共に礼拝し、共に祈り合いながら、御言葉に生かされている信徒の方々と出会いました。

そしてもう一つ、心揺さぶられる出会いがありました。それは他でもない、「神の言葉」との出会いです。この実習期間に、伝道者を志す者として、私はもう一度御言葉と向かい合いました。御言葉を生きる糧として味わい、反芻することで、自分自身が救われていく。その救いを言葉にして伝えていくこと。それが福音を宣べ伝えることであるというのを、実感することができました。伝道者としてのスタートラインにようやく立つことができたような気がします。この豊かな出会いを与えてくださった神様に心から感謝致します。また迎え入れてくださった先生方、信徒の皆様のおかげで感謝致します。この感謝を胸に、今後の学びに励んでいきたいと思えます。

「召命感の確信」

学部4年 原 妃弥子

今夏、お世話になった兵庫地区では各教会の伝統が様々で、礼拝形式や教会学校の進め方の違いを体験できたことはアイデアの広がりという面からも貴重な学びとなりました。とくに経験のなかった介護施設や自宅訪問、家庭集会の大切さを示されたことは大きな恵みでありました。なぜなら「御言葉を切実に待っている人がいる」という事実が示されたからです。それはとくに高齢のた

め、あるいは健康上の理由から教会へ来たくとも来られない方々に顕著でした。その人達は御言葉を待ち望んでおられるのです。寝たきりで言葉を出す力がなくとも御言葉に潤い、喜んでくれる思いが伝わってくるのです。その時、私は確信を得ました。まだ主を知らない人々に福音を伝えることと同様、御言葉を待っている人々にまず御言葉を届けなければならぬ、そのために私は主から召されているのだと、改めて召命感を確認することができたのです。一方、説教原稿では、その聖書箇所が教義学的に何を語ろうとしているのか、キリスト論なのか、贖罪論なのか、を意識して語ることがいかに重要であるかを教わりました。この成果は帰京後、出席教会においてすぐに現れました。教義を意識することで礼拝説教がより深く理解できるようになり、教会奉仕にも恵みを感じられるようになりました。主の御導きに感謝です。

「初めて経験した日本の教会」

夏期伝道実習を終えてー
大学院1年 金 賢俊

代田教会は私が初めて経験した日本の教会です。私の生涯において、代田教会は決して忘れることのできない教会です。代田教会に導いてくださった神の恵みに喜び、感激しました。平野先生と、ぺ先生、また代田教会の皆さんのおかげで伝道実習の終わりまで無事に続けることができました。平野先生との説教勉強会は聖書の言葉、私の言葉、聞き手の言葉を考えながら説教を準備する本

当に勉強になった時間でした。また、二人の信徒の葬儀を通じて信仰の旅を無事に終えた立派な信仰者の姿を見ることができ、心から感謝しました。子ども科のキャンプに参加し、子どもたちと一緒に礼拝、食事、入浴、ゲームをしました。また、ジュニア科の学生と一緒にアジア学院に行きました。たくさんのお話をすることはできませんでしたが、子どもたちの明るい笑顔が今でも心に残っています。代田カフェで信徒さんとの交わりの時間、いずみ会での証しの時間がありました。韓国から日本に渡った神学生に多くの関心を持ってくださってありがとうございます。代田教会での夏期伝道実習を通して、私が出した考えに多くの変化がありました。東京神学大学を卒業後、どこに行こうか迷っていた私に可能性を発見する貴重な時間でした。

「隠れキリシタンの里を訪れた夏期伝」

大学院1年 宇都宮 明子

昨年同様、関西を希望し、神戸に続き今年も海の見える長崎での夏期伝、2度目の今回は少し余裕をもって臨むことができました。到着翌日の週報で「東雲高校の聖書科の先生をしてもらった宇都宮明子神学生」と紹介され、5回の主日礼拝説教を担当させて頂きました。佐世保東部伝道所は、展望温泉付き高級老人ホーム、ケアハウス、認定こども園、学童保育施設、乳児保育園等、沢山の付属施設に囲まれた教会で、礼拝出席は約20名です。認定こども園の礼拝で平和をテーマとした説教2回、学童で聖書のお話4回、乳児保育園の職員の方向けの聖書のお話をさせて頂きました。ノンクリスチャンにも聖書のお話ができ、大きな喜びでした。コロナが出て老人ホームには入れず、残念でした。

また、ザビエル記念教会等の平戸のカトリックの教会群、生月島の隠れキリシタン博物館、多くの殉教者を出した中江ノ島等、キリスト者必見の観光をさせて頂きました。有田焼や伊万里焼の窯元にも未瀬先生や信徒さんに連れられて頂き、とびきりおいしいお魚や地元の名物をご馳走になり、長崎を堪能した一月でした。2回、普段の礼拝出席者よりも6名多かったこと、以前増尾さんが通われていた有田教会を訪問できたこと、先生のご長女、宇都宮さんとお会いでき感謝に思いましたとお祈りに感謝した夏期伝でした。

東京神学大学 オープンキャンパス 2024

日時：2024年12月7日(土) 9:00～ (受付8:45～、個別の受験相談は11:45頃から開始予定)

◆ 東京神学大学に来校 または 一部分オンラインでの参加 ◆

ショート・レクチャー 神学の学びの奥深さに触れられます。

礼拝 神学校生活の“霊的中心”を体験できます。

学校紹介 神学生が東神大の魅力をお伝えします。

入試説明 受験の準備と心構えについてご説明します。

懇談 神学生との交流の機会です。

受験相談 教員が個別の相談に応じます。

プログラムの詳細や最新の情報も
HPでご確認いただけます。



◎ 事前申し込み制です！

Webからのお申し込みは
www.tuts.ac.jp/admission/



東京神学大学 教務課入試係

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30
Tel: 0422-32-4185 Fax: 0422-33-0667
E-mail: tuts@tuts.ac.jp

▼10月から始まる

公開夜間神学講座のご案内▲

月曜日(11月11日) 全6回

「牧会カウンセリング入門」 講師 吉岡 光人

金曜日(10月25日) 全6回

「パウロ入門」 講師 河野 克也

月曜日(1月20日) 全6回

「旧約聖書緒論概説」 講師 宮寄 薫

金曜日(1月17日) 全6回

「信仰継承のために」 講師 長山 道

* * *

会場…日本基督教団銀座教会
時間…午後6時～8時
定員…各講座30名

聴講を希望される方は、夜間講座事務局までお問い合わせください。

2025年度パンフレットは、12月下旬にお届けできる予定です。

◎お問い合わせ・お申し込み・資料請求

東京神学大学学外活動委員会(夜間講座事務局)

0422-32-4185

2025年度 学生募集



東京神学大学

「神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現とその御国を思いつつ、厳かに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。」 (テモテへの手紙二 4章1節～2a節)

Table with columns: 学部, 出願期間, 試験日, 入試区分. Rows include 11月, 2月, 3月 admissions for various departments.

資料請求 東京神学大学 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-30
お問合せ 教務課入試係 Tel: 0422-32-4185 Fax: 0422-33-0667
E-mail: tuts@tuts.ac.jp URL: https://www.tuts.ac.jp/

学事往来

9月2日 公開夜間神学講座2学期開始
9月10日 大学院修士論文提出締切
9月18日 後期始業式、始業講演.. 小泉 健教授、神学生
9月19日 後期授業開始
9月28日 日本伝道を担う青年の会との懇談会
10月1日 夏期伝道実習報告会
10月18日 11月入学者選抜願書受付期間
11月5日 全学修養会
11月23日 11月入学者選抜実施日
11月27日 11月入学者選抜合格発表
12月7日 オープンキャンパス
9月9日 第557回常務理事会
【理事会関係】
銀座教会

集い

告知板

第53回 教職セミナー案内

主 題: 「福音の担い手: 伝道者論をめぐって」
日 時: 2025年1月7日(火)～9日(木)
場 所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
渋谷区代々木神園町3-1
◇小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分
◇地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
主題講演、シンポジウム、分団協議
参加費用: 4,000円 (施設使用料、昼食費含む) 部分参加の場合でも、返金はいたしません。
申込方法: 本学ホームページからお申し込みください。
申込締切: 12月7日(土)
問い合わせは、本学学外活動委員会まで
※宿泊に付きましては、参加者ご自身で近隣の宿泊施設をご予約ください。本学では手配いたしません。

公務出張

10月7日 第558回常務理事会 銀座教会
11月11日 第559回常務理事会 銀座教会
11月25日 第212回定期評議員会、第255回定期理事会 銀座教会
【後援会関係】
10月21日 第2回東京地区推進委員会 銀座教会
【財政委員会関係】
9月9日 財政部会 銀座教会
10月29日 10月31日 教団総会 常務理事会(銀座教会)
10月11日 10月20日 北海地区後援会 東京地区後援会推進委
10月13日 東京北地区後援会
10月7日 常務理事会(銀座教会) 集い
9月28日 日本伝道を担う青年の会
9月18日 後期始業式、神学生出席教会牧師との懇談会 (銀座教会)
9月9日 常務理事会、財政部会

11月16～17日 愛岐三地区後援会
11月25日 定期理事会・定期評議員会

訃報

南部 泰孝氏 2024年6月17日逝去されました。89歳。(1961年東京神学大学院修了)
伊藤 嘉朗氏 2024年6月24日逝去されました。82歳。(1969年東京神学大学院修了)
大崎 節郎氏 2024年7月9日逝去されました。91歳。(1958年東京神学大学院修了)
高砂 民毅氏 2024年7月14日逝去されました。88歳。(1964年東京神学大学院修了)
増田 将平氏 2024年7月16日逝去されました。52歳。(1996年東京神学大学卒業)

《学報327お詫びと訂正》
裏表紙訃報 小久保 達之佑先生の享年が誤っておりまして、正しくは91歳です。お詫びして訂正いたします。

二〇二四年十月十一日発行
東京神学大学報・三二九号
〒181-0015 東京都三鷹市大沢三-10-30
東京神学大学広報委員会
電話 〇四二一三二一四一八五
FAX 〇四二一三二一〇六六七
郵便振替 〇〇一五〇一五〇三三二
https://www.tuts.ac.jp/